

二〇二六年度 長野大学 入学試験

小論文 出題文用紙

次の文章を読み、設問一および設問二に答えなさい。

日本は一九七〇年代以降、出生率の低下に悩まされています。（中略）日本の出生率の低下の根本原因は未婚化です。つまり結婚するタイミングが遅れたり、あるいはそもそも結婚しない人が増えたりした、ということです。日本以外でも少子化に悩まされている国がいくつかありますが、それらの国に共通する特徴が、「家族主義」であることです。

家族主義の国で人々が家族を作らなくなっているというのは、逆説的な現象ですね。どうしてこんなことが生じているのでしょうか。家族主義とは、社会の中で家族の果たす役割を重視する考え方です。子育てでも介護でも、家族の役割を第一に考えます。イタリアやスペインなどの南欧諸国や、日本や韓国などの東アジア社会がこれにあてはまります。これに対して家族主義ではない国、たとえばスウェーデンなどでは、子育てや介護の負担を国全体で分かち合おうとします。つまり、政府が保育や介護などの面で手厚く家族をサポートするわけです。

家族主義の国では、家族の役割が重いですから、気軽に家族を作るわけには行きません。ちゃんと機能する家族を作るために、女性はしっかりと稼ぐ能力のある男性を探さなければなりません。これに対して家族主義ではない国では、家族の負担が軽い分、もっと気軽に家族を作ることができます。これが、家族主義ではない国のほうが出生率が高くなる理由です。

たしかに、一九七〇年代くらいまでは日本でも「家族主義」でうまく回っていました。そのやり方を変えたくない、そのやり方が一番なんだと考えたがる「保守系」の人たちがいても不思議なことではありません。しかしその時期の家族がうまく行っていたのは、高齢の親世代の寿命が現在ほど長くなく、またきょうだいがたくさんいたために一人あたりの介護負担が比較的軽かったこと、家族を支える男性稼ぎ手の雇用が安定していたこと、といった条件がそろっていたからです。

これらの条件は、すでに失われてしまいました。環境が変われば、当然昔の環境でうまく行っていたやり方は通用しなくなります。ここはひとつ反省して、新しい方針を立て直さなければなりません。いってみれば、政府が率先して安定的な生活基盤をつくって、それによって家族の負担を減らしてやれば、人々は安心して家族を作るようになるわけです。「しっかりとした家族を作らなければならない、そのためには稼ぎのある人と一緒にしなければならない」と考えているうちは、不安定でリスクのあるこの社会で家族を作ることになかなか踏み込めないかもしれません。逆に、家族に頼らなくてもそこそこ安定して暮らしていける社会であれば、人々は誰かと一緒になることにそれほど躊躇ちゅうちよしないでしょう。

（筒井淳也『社会を知るためには』一部改変）

設問一 要旨を二〇〇字（二〇字×一〇行）以内で書きなさい。

設問二 著者の主張をふまえ、あなたの意見を四〇〇字（二〇字×二〇行）以内で書きなさい。